

高幡地域アクションプランの 修正（予定項目）

高 幡 地 域 本 部
令和7年10月27日（月）

高幡地域アクションプランの修正（予定項目）

■修正

NO.	アクションプラン名	見直しする内容
1	<p>No. 2 四万十流域資源のブランド力を活かした地域の活性化（四万十町）</p> <p>【実施主体】◎四万十の栗再生プロジェクト推進協議会、◎(株)四万十ドラマ、四万十町</p>	<p>R7年8月末に「四万十の栗再生プロジェクト推進協議会」が解散したため、「同協議会」及び「四万十町」を実施主体から削除する。</p> <p>併せて、これまで生産者はJAへ栗を出荷していたが、協議会解散後は、JAと(株)四万十ドラマに出荷するため、指標を「栗集荷量」に修正する。（目標値には影響なし）</p>
2	<p>No. 4 四万十ポークのブランド化の推進（四万十町）</p> <p>【実施主体】◎四万十ポークブランド推進協議会、(農)平野協同畜産、(有)渡辺畜産、(株)山中畜産、(農)四国デュロックファーム</p>	<p>(株)山中畜産の豚舎整備について、当初の予定から遅れが生じたため、行程表を修正する。</p>
3	<p>No. 6 須崎市産養殖マダイ等の販路拡大（須崎市）</p> <p>【実施主体】◎(株)小島水産、◎乙女会、高知県漁協深浦支所</p>	<p>取引の拡大により、今後の売上げの増加が見込めるため、R9目標を下記のとおり上方修正する。</p> <p>【R9目標】 (修正前)200,000千円→(修正後)300,000千円</p>
4	<p>No. 8 「鰹乃國水産」ブランドの創出・販売促進（中土佐町）</p> <p>【実施主体】◎企画・ど久礼もん企業組合、中土佐町</p>	<p>安定的な生産体制の構築（冷凍カツオ）について、当初の予定より前倒しで人員確保ができたため、行程表を修正する。併せて、R8年度以降は、冷凍タタキ等の商品製造に注力していくため、行程表を「冷凍タタキ等の製造」に修正する。</p> <p>また、ECサイトの改修について、R6年度に改修が完了したため、行程表を修正する。</p>
5	<p>No. 10 梶原町地産地消・外商の促進（梶原町）</p> <p>【実施主体】◎梶原町商工振興協同組合、梶原町、JA高知県（高西地区）、町内事業者、生産団体</p>	<p>R7年度から、「(一社)ゆすはら雲の上観光協会」が地域商社機能を担うこととなり、町産品の地産地消・外商活動に取り組むこととなったため、実施主体に「(一社)ゆすはら雲の上観光協会」を追加する。また、「生産団体」は町内事業者に含まれるため、削除する。</p>

6	<p>No. 12 津野町地産地消・外商推進プロジェクト（津野町）</p> <p>【実施主体】◎津野町、(有)津野町ふるさとセンター、(株)満天の星、JA高知県（高西地区）</p>	<p>満天の星アンテナショップについて、リニューアルの方針決定に時間を要するため、設計等に係る行程表を修正する。</p>
7	<p>No. 13 道の駅「あぐり窪川」の機能強化と地域の活性化（四万十町）</p> <p>【実施主体】◎四万十町、(株)あぐり窪川</p>	<p>販路拡大について、関西圏に加え、関東や名古屋などへの営業活動を強化するため、行程表を「営業活動の強化」に修正する。</p>
8	<p>No. 19 カツオを起点とした持続可能な観光を主軸とする地域産業の振興（中土佐町）</p> <p>【実施主体】◎(一社)なかとさ観光協会、中土佐町、(株)中土佐町地域振興公社、大正町市場協同組合、中土佐町商工会</p>	<p>中心商店街周辺の駐車場整備に向けた検討について、当面は警備員の配置によるソフト対策に方針を変更するため、行程表から駐車場整備に関する記載を削除する。なお、駐車場整備に係る検討は継続して行う。</p>

高幡地域アクションプラン

		分野	農業
AP名 (実施地域)	No.2 四万十流域資源のブランド力を活かした地域の活性化 (四万十町)		
実施主体	◎四万十の栗再生プロジェクト推進協議会、◎(株)四万十ドラマ、四万十町		
APへの位置づけ	H22.4月		
事業概要	四万十川流域の資源を活かして流域の生産者と加工事業者が連携して、6次産業化の取り組みを拡大することで、農業者の所得向上と雇用の創出を図り、中山間地域の活性化を目指す。		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
生産量の増大	<ul style="list-style-type: none"> 苗木の補助などにより、栗の新改植を推進 (H22~) 担い手として「しまんと新一次産業(株)」設立 (H24) 栗技術チーム会での低樹高化に向けたせん定技術の普及、特選栗認定の推進 (H24~) 人参芋の栽培を推進する「四万十の芋プロジェクト協議会」を設立 (R3) 茶のオーガニック化を目指した産地づくり (R5~6) →産振アドバイザー制度の活用 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 四万十ドラマ雇用者数 (加工部) H30: 8人 →R5: 20人 新商品開発 R3: 8品 R4: 2品 R5: 3品 加工品売上 H30: 9,900万円 →R5: 3.9億円
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> 農山漁村振興交付金を活用した研修プログラム開発、研修プログラムモニターツアーの実施 	
施設機械整備とブランド化	<ul style="list-style-type: none"> (株)四万十ドラマがカフェを併設した加工場「おちゃくりカフェ」を整備 (H25) →産振補助金の活用 しまんと新一次産業(株)ペースト工場が完成 (H29) →産地パワーアップ事業の活用 しまんと新一次産業(株)に高品質ペースト機械導入 (R元) →次世代型ハウス・農業クラスター促進事業の活用 (株)四万十ドラマ新工場への加工機械整備 (R3) →R2 (R3 繰越) 新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金の活用 商品増産体制の整備、営業体制の強化 (R4~5) →産振アドバイザー制度の活用 直営販売店 (高知市) のオープン (R6.3) 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢化等による生産量の減少 新商品の開発とブランド化による販路の拡大

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1) JA 栗集荷量 (大正、十和、西土佐)	26.6t (R4)	18.1t			30t
(2) 芋生産量 (四万十の芋プロジェクト協議会)	44t (R4)	43.5t			70t
(3) (株)四万十ドラマ 新規雇用者数	-	2人			10人 (R6~9 累計)
(4) (株)四万十ドラマ 加工品販売額	3.4億円 (R4)				5億円

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>生産の強化</p> <p>■(株)四万十ドラマ</p> <ul style="list-style-type: none"> しまんと流域農業 organic プロジェクトの推進 (地域の農業法人との連携による栗・芋等の栽培拡大) しまんと地栗植樹プロジェクト (農業部門の立ち上げ) <p>□県 (高南農業改良普及所等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 栗: 剪定講習会、目慣らし会開催支援 芋: 病害虫対策の周知、有機農業に関する情報提供 				
<p>地域外との交流促進</p> <p>■(株)四万十ドラマ</p> <ul style="list-style-type: none"> 四万十の人々の日々の営みから学ぶ『しまんと分校』(R7 開校)と連携した研修プログラムの実施 <p>□県 (地域本部等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修プログラムの実施、運営に関するアドバイザーの活用提案 				
<p>加工流通・販売拡大</p> <p>■(株)四万十ドラマ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産拡大に向けた施設整備や設備の検討 (貯蔵庫、冷凍庫、農作物流通センター等) 生産性の向上(効率的な生産に向けた機械導入の検討) 営業体制の強化(商品提案の磨き上げやアプローチ方法の分析) 自社 EC 販売強化 (EC サイトの改良) 地域資源を活かした新商品開発 <p>□県 (地域本部等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 産振補助金の紹介、研修会や支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 				

高幡地域アクションプラン

分野 農業

AP名 (実施地域)	No.2 四万十流域資源のブランド力を活かした地域の活性化 (四万十町)
実施主体	◎(株)四万十ドラマ
APへの位置づけ	H22.4月
事業概要	四万十川流域の資源を活かして流域の生産者と加工事業者が連携して、6次産業化の取り組みを拡大することで、農業者の所得向上と雇用の創出を図り、中山間地域の活性化を目指す。

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
生産量の増大	<ul style="list-style-type: none"> 苗木の補助などにより、栗の新改植を推進 (H22~) 担い手として「しまんと新一次産業(株)」設立 (H24) 栗技術チーム会での低樹高化に向けたせん定技術の普及、特選栗認定の推進 (H24~) 人参芋の栽培を推進する「四万十の芋プロジェクト協議会」を設立 (R3) 茶のオーガニック化を目指した産地づくり (R5~6) →産振アドバイザー制度の活用 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 四万十ドラマ雇用者数 (加工部) H30: 8人 →R5: 20人 新商品開発 R3: 8品 R4: 2品 R5: 3品 加工品売上 H30: 9,900万円 →R5: 3.9億円
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> 農山漁村振興交付金を活用した研修プログラム開発、研修プログラムモニターツアーの実施 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢化等による生産量の減少 新商品の開発とブランド化による販路の拡大
施設機械整備とブランド化	<ul style="list-style-type: none"> (株)四万十ドラマがカフェを併設した加工場「おちゃくりカフェ」を整備 (H25) →産振補助金の活用 しまんと新一次産業(株)ペースト工場が完成 (H29) →産地パワーアップ事業の活用 しまんと新一次産業(株)に高品質ペースト機械導入 (R元) →次世代型ハウス・農業クラスター促進事業の活用 (株)四万十ドラマ新工場への加工機械整備 (R3) →R2 (R3 繰越) 新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金の活用 商品増産体制の整備、営業体制の強化 (R4~5) →産振アドバイザー制度の活用 直営販売店 (高知市) のオープン (R6.3) 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢化等による生産量の減少 新商品の開発とブランド化による販路の拡大

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1) 栗集荷量 (大正、十和、西土佐)	26.6t (R4)	18.1t			30t
(2) 芋生産量 (四万十の芋プロジェクト協議会)	44t (R4)	43.5t			70t
(3) (株)四万十ドラマ 新規雇用者数	-	2人			10人 (R6~9 累計)
(4) (株)四万十ドラマ 加工品販売額	3.4億円 (R4)	3.8億円			5億円

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>生産の強化</p> <p>■(株)四万十ドラマ</p> <ul style="list-style-type: none"> しまんと流域農業 organic プロジェクトの推進 (地域の農業法人との連携による栗・芋等の栽培拡大) しまんと地栗植樹プロジェクト (農業部門の立ち上げ) <p>□県 (高南農業改良普及所等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 栗: 剪定講習会、目慣らし会開催支援 芋: 病害虫対策の周知、有機農業に関する情報提供 				
<p>地域外との交流促進</p> <p>■(株)四万十ドラマ</p> <ul style="list-style-type: none"> 四万十の人々の日々の営みから学ぶ『しまんと分校』(R7 開校)と連携した研修プログラムの実施 <p>□県 (地域本部等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修プログラムの実施、運営に関するアドバイザーの活用提案 				
<p>加工流通・販売拡大</p> <p>■(株)四万十ドラマ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産拡大に向けた施設整備や設備の検討 (貯蔵庫、冷凍庫、農作物物流通センター等) 生産性の向上(効率的な生産に向けた機械導入の検討) 営業体制の強化(商品提案の磨き上げやアプローチ方法の分析) 自社 EC 販売強化 (EC サイトの改良) 地域資源を活かした新商品開発 <p>□県 (地域本部等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 産振補助金の紹介、研修会や支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 				

修正項目(案)

修正前

高幡地域アクションプラン

分野 農業

AP名 (実施地域)	No.4 四万十ポークのブランド化の推進 (四万十町)
実施主体	◎四万十ポークブランド推進協議会、(農)平野協同畜産、(有)渡辺畜産、(株)山中畜産、(農)四国デュロックファーム
APへの位置づけ	H27.4月
事業概要	安心・安全な豚肉を安定的に消費者に提供できる体制のもと、関係機関が連携して一体的な取り組みを進め、四万十町産豚肉のブランド価値と収益性の向上を目指す。

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
ブランド化の推進	<ul style="list-style-type: none"> 四万十ポークブランド推進協議会設立 (H26) 四万十町養豚クラスター計画とブランド化の方針を策定 (H26) ブランド化に向けた関係者のワークショップ (R元) →産振アドバイザー制度の活用 四万十ポークのロゴマーク決定 (R2) 外商専用ウェブサイトの開設及び販促ツールの作成 (R3) パンフレット作成、地域イベントへの出店 (R5) 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> (農)四国デュロックファーム加工品売上高 H30: 9,202万円→ R5: 1.8億円 雇用の創出 加工直販所 ((農)四国デュロックファーム) H27: 1人→R5: 9人 養豚農家 ((農)平野協同畜産) H27: 0人→R5: 1人
商品開発と販路開拓	<ul style="list-style-type: none"> (農)四国デュロックファーム直営の加工所及び直販所を整備 (H27) →産振補助金の活用 (農)平野協同畜産直営の加工所及び直販所を整備 (R4) →産振アドバイザー制度の活用 (農)平野協同畜産による新商品開発 (R5) →商品づくりワーキング (食のプラットフォーム) の活用 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 四万十ポークの認知度向上 伝染性疾病の低減
生産基盤の強化	<ul style="list-style-type: none"> (農)平野協同畜産の豚舎を整備 (H28~29) →産振補助金の活用 高知県初の農場 HACCP 推進農場に認定 (H28) 四国初の養豚農場 HACCP 認証取得 (R元) (農)四国デュロックファームの豚舎を整備 (R3~4) →大規模畜産施設整備事業費補助金 (県)、畜産・酪農収益力強化総合対策基金等事業補助金 (国) の活用 (有)渡辺畜産の豚舎を整備 (R4~5) →大規模畜産施設整備事業費補助金 (県)、畜産・酪農収益力強化総合対策基金等事業補助金 (国) の活用 	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1) 四万十ポーク売上高※1	10.4億円 (R4)				15.2億円
(2) 年間出荷頭数 [うち(株)山中畜産の年間出荷頭数]	25,332頭 [1,783頭] (R4)				38,696頭 [4,514頭]
(3) 四万十ポーク取扱店舗数※2	2軒 (R4)				40軒 (R6~9累計)

※1 JA 高知県の取扱高 ※2 取扱店のうち、PRに協力いただく店舗数

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>四万十ポークのPR</p> <ul style="list-style-type: none"> ■四万十ポークブランド推進協議会 <ul style="list-style-type: none"> イベント参加やPRキャンペーン等による四万十ポークの認知度の向上 □県 (西部家畜保健衛生所、地域本部等) <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供、関係機関との橋渡し <p>地域団体商標の取得</p> <ul style="list-style-type: none"> ■四万十ポークブランド推進協議会 <ul style="list-style-type: none"> 地域団体商標取得に向けた体制等の検討及び課題整理 □県 (西部家畜保健衛生所、地域本部等) <ul style="list-style-type: none"> ブランド化促進のための産振アドバイザー制度の活用を提案、各種支援制度の情報提供 				
<p>商品開発と販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ■四万十ポークブランド推進協議会 <ul style="list-style-type: none"> 新商品の開発、催事・商談会等への参加による販路拡大 □県 (地域本部等) <ul style="list-style-type: none"> 新商品開発に向けた産振アドバイザー制度の活用を提案、各種支援制度の情報提供 				
<p>生産基盤の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ■(株)山中畜産 <ul style="list-style-type: none"> 豚舎整備 □県 (西部家畜保健衛生所等) <ul style="list-style-type: none"> 防疫衛生に関するアドバイス、各種補助事業の紹介 				
<p>【用語】・農場 HACCP：農場の衛生管理を向上させるため、農場に HACCP の考え方を取り入れ、危害要因を防止するための管理ポイントを設定、継続的に監視・記録を行うことで、農場段階で危害要因をコントロールする手法のこと。畜産分野においては、家畜の疾病等の要因分析を行い、排除または管理する方策の構築、家畜の健康維持の確保、家畜、畜産物の安全性の確保と生産性の向上を可能とする。</p>				

高幡地域アクションプラン

分野 農業

AP名 (実施地域)	No.4 四万十ポークのブランド化の推進 (四万十町)
実施主体	◎ 四万十ポークブランド推進協議会、(農)平野協同畜産、(有)渡辺畜産、(株)山中畜産、(農)四国デュロックファーム
APへの位置づけ	H27.4月
事業概要	安心・安全な豚肉を安定的に消費者に提供できる体制のもと、関係機関が連携して一体的な取り組みを進め、四万十町産豚肉のブランド価値と収益性の向上を目指す。

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
ブランド化の推進	<ul style="list-style-type: none"> 四万十ポークブランド推進協議会設立 (H26) 四万十町養豚クラスター計画とブランド化の方針を策定 (H26) ブランド化に向けた関係者のワークショップ (R元) →産振アドバイザー制度の活用 四万十ポークのロゴマーク決定 (R2) 外商専用ウェブサイトの開設及び販促ツールの作成 (R3) パンフレット作成、地域イベントへの出店 (R5) 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> (農)四国デュロックファーム加工品売上高 H30: 9,202万円→ R5: 1.8億円 雇用の創出 加工直販所 ((農)四国デュロックファーム) H27: 1人→R5: 9人 養豚農家 ((農)平野協同畜産) H27: 0人→R5: 1人
商品開発と販路開拓	<ul style="list-style-type: none"> (農)四国デュロックファーム直営の加工所及び直販所を整備 (H27) →産振補助金の活用 (農)平野協同畜産直営の加工所及び直販所を整備 (R4) →産振アドバイザー制度の活用 (農)平野協同畜産による新商品開発 (R5) →商品づくりワーキング (食のプラットフォーム) の活用 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 四万十ポークの認知度向上 伝染性疾病の低減
生産基盤の強化	<ul style="list-style-type: none"> (農)平野協同畜産の豚舎を整備 (H28~29) →産振補助金の活用 高知県初の農場 HACCP 推進農場に認定 (H28) 四国初の養豚農場 HACCP 認証取得 (R元) (農)四国デュロックファームの豚舎を整備 (R3~4) →大規模畜産施設整備事業費補助金 (県)、畜産・酪農収益力強化総合対策基金等事業補助金 (国) の活用 (有)渡辺畜産の豚舎を整備 (R4~5) →大規模畜産施設整備事業費補助金 (県)、畜産・酪農収益力強化総合対策基金等事業補助金 (国) の活用 (株)山中畜産の豚舎を整備 (R6~7) →産振補助金 (県)、畜産・酪農収益力強化総合対策基金等事業補助金 (国) の活用 	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1) 四万十ポーク売上高※1	10.4億円 (R4)	13.6億円			15.2億円
(2) 年間出荷頭数 [うち(株)山中畜産の年間出荷頭数]	25,332頭 [1,783頭] (R4)	28,082頭 [568頭]			38,696頭 [4,514頭]
(3) 四万十ポーク取扱店舗数※2	2軒 (R4)	34軒			40軒 (R6~9 累計)

※1 JA 高知県の取扱高 ※2 取扱店のうち、PR に協力いただく店舗数

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>四万十ポークの PR</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 四万十ポークブランド推進協議会 <ul style="list-style-type: none"> イベント参加や PR キャンペーン等による四万十ポークの認知度の向上 □ 県 (西部家畜保健衛生所、地域本部等) <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供、関係機関との橋渡し <p>地域団体商標の取得</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 四万十ポークブランド推進協議会 <ul style="list-style-type: none"> 地域団体商標取得に向けた体制等の検討及び課題整理 □ 県 (西部家畜保健衛生所、地域本部等) <ul style="list-style-type: none"> ブランド化促進のための産振アドバイザー制度の活用を提案、各種支援制度の情報提供 				
<p>商品開発と販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 四万十ポークブランド推進協議会 <ul style="list-style-type: none"> 新商品の開発、催事・商談会等への参加による販路拡大 □ 県 (地域本部等) <ul style="list-style-type: none"> 新商品開発に向けた産振アドバイザー制度の活用を提案、各種支援制度の情報提供 				
<p>生産基盤の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ (株)山中畜産 <ul style="list-style-type: none"> 豚舎整備 □ 県 (西部家畜保健衛生所等) <ul style="list-style-type: none"> 防疫衛生に関するアドバイス、各種補助事業の紹介 				
<p>【用語】・農場 HACCP：農場の衛生管理を向上させるため、農場に HACCP の考え方を取り入れ、危害要因を防止するための管理ポイントを設定、継続的に監視・記録を行うことで、農場段階で危害要因をコントロールする手法のこと。畜産分野においては、家畜の疾病等の要因分析を行い、排除または管理する方策の構築、家畜の健康維持の確保、家畜、畜産物の安全性の確保と生産性の向上を可能とする。</p>				

修正項目(案)

修正前

高幡地域アクションプラン

		分野	水産業
AP名 (実施地域)	No.6 須崎市産養殖マダイ等の販路拡大 (須崎市)		
実施主体	◎(株)小島水産、◎乙女会、高知県漁協深浦支所		
APへの位置づけ	H25.4月		
事業概要	養殖魚(マダイ)生産者グループと養殖業に関連した民間企業、漁協と連携し、他産地の生産動向や県外大手出荷業者の販売戦略に左右されにくい販売力(自社価格の設定、加工による付加価値の向上、取引量の拡大等)を構築し、養殖業の振興を図る。		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
品質の維持・向上と生産量の確保	<ul style="list-style-type: none"> 新規漁業就業者の確保を目的とした漁業就業セミナーの開催(H27:1回、R元:1回) 生産者の確保を目的とした新規漁業就業者の長期研修生受入(H29:1名、H30:1名) 	[成果] ・雇用の増 (株)小島水産 R4:5名 →R5:10名
販路の開拓・拡大	<ul style="list-style-type: none"> バイヤーや飲食店事業者を対象とした産地見学会の開催(H28:13回、H29:2回、H30:5回、R4:2回) 県内外商談会への出展(H27:4回、H28:3回、H29:3回、R3:2回) 	[課題] ・さらなる販路の拡大に向けた販売促進 ・安定的なマダイ生産に係る生産者の確保
加工体制の強化・新商品の開発	<ul style="list-style-type: none"> 加工施設の拡張(R3)→産振補助金を活用 先進的な加工機器(金属探知機、うろこ落とし機、フィレマシン等)の導入(H25~26)→革新的なものづくり・商業・サービス開発支援補助金等を活用 HACCP研修等の受講(H29~30) 衛生管理の強化に向け、県版HACCP第3ステージの認証取得(H30.10月) 加工事業の人員拡充による生産能力の向上 	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
乙女鯛売上高※	103,909 千円 (R4)				200,000 千円

※会計年度:10月~9月(R5.9月末決算以降は、1月末決算)

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
品質の維持・向上と生産量の確保 ■乙女会 ・販路拡大等、有利販売の強化による生産者の乙女会への新規加入促進を通じた生産量の増加 □県(中央漁業指導所等)、高知県漁協深浦支所 ・新規漁業就業セミナー等の開催支援、漁業就業フェアの開催及び支援制度等に関する情報提供				後継者及び生産者の確保
販路の開拓・拡大 ■(株)小島水産 ・県内外商談会への出展、ふるさと納税返礼品取り扱いや個別の商談等による販路の拡大 □県(中央漁業指導所等) ・県内外商談会等の紹介、商談会の出展等に係る支援制度の情報提供、関係者への橋渡し				新たな販路の開拓・拡大
加工体制の強化・新商品の開発 ■(株)小島水産 ・コンセプトづくり、市場調査(消費者の意見集約)、製造方法等の検討、商品改良や商品化の実現 □県(地域本部等) ・商品化に向けたアドバイスを得るための産振アドバイザーの活用提案、加工品試作に係る支援制度の情報提供				安定的な加工体制の確保 スタッフの研修
				新商品の開発

修正後

高幡地域アクションプラン

分野 水産業

AP名 (実施地域)	No.6 須崎市産養殖マダイ等の販路拡大 (須崎市)
実施主体	◎(株)小島水産、◎乙女会、高知県漁協深浦支所
APへの位置づけ	H25.4月
事業概要	養殖魚(マダイ)生産者グループと養殖業に関連した民間企業、漁協と連携し、他産地の生産動向や県外大手出荷業者の販売戦略に左右されにくい販売力(自社価格の設定、加工による付加価値の向上、取引量の拡大等)を構築し、養殖業の振興を図る。

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
品質の維持・向上と生産量の確保	<ul style="list-style-type: none"> 新規漁業就業者の確保を目的とした漁業就業セミナーの開催(H27:1回、R元:1回) 生産者の確保を目的とした新規漁業就業者の長期研修生受入(H29:1名、H30:1名) 	[成果] ・雇用の増(株)小島水産 R4:5名 →R5:10名
販路の開拓・拡大	<ul style="list-style-type: none"> バイヤーや飲食店事業者を対象とした産地見学会の開催(H28:13回、H29:2回、H30:5回、R4:2回) 県内外商談会への出展(H27:4回、H28:3回、H29:3回、R3:2回) 	[課題] ・さらなる販路の拡大に向けた販売促進 ・安定的なマダイ生産に係る生産者の確保
加工体制の強化・新商品の開発	<ul style="list-style-type: none"> 加工施設の拡張(R3)→産振補助金を活用 先進的な加工機器(金属探知機、うろこ落とし機、フィレマシン等)の導入(H25~26)→革新的なものづくり・商業・サービス開発支援補助金等を活用 HACCP研修等の受講(H29~30) 衛生管理の強化に向け、県版HACCP第3ステージの認証取得(H30.10月) 加工事業の人員拡充による生産能力の向上 	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
乙女鯛売上高※	103,909 千円 (R4)				<u>300,000</u> 千円

※会計年度：10月～9月(R5.9月末決算以降は、1月末決算)

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
品質の維持・向上と生産量の確保 ■乙女会 ・販路拡大等、有利販売の強化による生産者の乙女会への新規加入促進を通じた生産量の増加 □県(中央漁業指導所等)、高知県漁協深浦支所 ・新規漁業就業セミナー等の開催支援、漁業就業フェアの開催及び支援制度等に関する情報提供				後継者及び生産者の確保
販路の開拓・拡大 ■(株)小島水産 ・県内外商談会への出展、ふるさと納税返礼品取り扱いや個別の商談等による販路の拡大 □県(中央漁業指導所等) ・県内外商談会等の紹介、商談会の出展等に係る支援制度の情報提供、関係者への橋渡し				新たな販路の開拓・拡大
加工体制の強化・新商品の開発 ■(株)小島水産 ・コンセプトづくり、市場調査(消費者の意見集約)、製造方法等の検討、商品改良や商品化の実現 □県(地域本部等) ・商品化に向けたアドバイスを得るための産振アドバイザーの活用提案、加工品試作に係る支援制度の情報提供				安定的な加工体制の確保 スタッフの研修
				新商品の開発

修正項目(案)

修正前

高幡地域アクションプラン

高幡地域アクションプラン		分野	商工業
AP名 (実施地域)	No.8 「鯉乃國水産」ブランドの創出・販売促進 (中土佐町)		
実施主体	◎企画・ど久礼もん企業組合、中土佐町		
APへの位置づけ	H21.4月		
事業概要	中土佐町の特産品であるカツオについて、冷凍カツオの価値を高め供給体制を構築し販売拡大することで、地元のカツオの一本釣りの文化や風土を含めたブランド化を図り漁業の活性化を目指す。		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
安定的な生産体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 水産加工場の整備 (H25～26) →産振補助金の活用 水揚げ時期に左右されない安定供給のための冷凍商品の開発・販売 (H29～) マイナス 50℃で保存可能な冷凍庫の整備 (R4) →中土佐町支援制度の活用 ※実施主体の変更 H27～29 中土佐町地域振興公社 H30～ (株)SEA プロジェクト R元～ 企画・ど久礼もん企業組合 タキ製品製造の効率化に向けて真空包装機導入 (R6) 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高鮮度ブランドの確立 →「びんび鯉のたたき」、「びんびめじか」商品化 商品開発数 H27～R6(12月時点) : 5商品 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 安定的な生産体制の構築 (仕入れ、製造、販売) 製造コストに見合う販売価格の検討 ECサイトの売上向上
販路拡大	<ul style="list-style-type: none"> 飲食店を対象にしたカツオのタキ加工の産地視察受入 (R2～5) 中土佐町ふるさと納税業務の受託 (R2～4) ECサイトリニューアル (R2、R6) →動画・写真の追加、操作性向上 事業戦略、アクションプラン作成 (R3) →産振アドバイザー制度の活用 飲食店への中土佐町食材提供や共同イベント実施による新たな取引先の開拓 (R3～4) →中土佐町支援制度の活用 大正町市場と連携したイベント「大正町市場かつお祭」の企画・実施 (R4) 冷凍カツオの付加価値向上とECサイトの新しい顧客創出の戦略づくり (R5)、パッケージ開発と販売促進 (R6) →産振アドバイザー制度の活用 県内外でのイベントでの冷凍カツオPR (R5～) 県外催事等で二次元コード(HP・ECサイト・SNS)付きメッセージカードの配布開始 (R6) 	<ul style="list-style-type: none"> 製造コストに見合う販売価格の検討 ECサイトの売上向上

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
売上高	3,072万円 (R4)				5,900万円

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>安定的な生産体制の構築 (冷凍カツオ)</p> <p>■企画・ど久礼もん企業組合</p> <ul style="list-style-type: none"> 冷凍カツオの製造のための人員確保 タキ製品製造の効率化に向けた施設整備 (急速冷凍機等) <p>□県 (地域本部)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供 	生産体制 見直し	設備の 導入	人員 確保	運用
	試作 検討		新商品の製造	
<p>営業活動の強化</p> <p>■企画・ど久礼もん企業組合</p> <ul style="list-style-type: none"> 冷凍カツオを中心とした商品の販路拡大 (首都圏・関西圏) (イベント出店、商談会参加、営業活動) 販売力強化に向けたECサイト改修 動線分析、動画・写真の追加、操作性向上、カツオのタキの新しいレシピ開発、食べ方提案など、消費者が購入しやすいサイトづくり ブランドイメージ構築に向けた情報の発信 カツオへのこだわり、他社との違い <p>□県 (地域本部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ECサイト改修に向けて産振アドバイザー制度の活用を提案 	関西圏、首都圏を主とする イベント・商談会出展			
	動線 分析	サイト 改修	ECサイト運用・ 随時見直し	
	ブランド サイト作成	継続的なブランド情報発信		

修正後

高幡地域アクションプラン

分野 商工業

AP名 (実施地域)	No.8 「鯉乃國水産」ブランドの創出・販売促進 (中土佐町)
実施主体	◎企画・どく礼もん企業組合、中土佐町
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	中土佐町の特産品であるカツオについて、冷凍カツオの価値を高め供給体制を構築し販売拡大することで、地元のカツオの一本釣りの文化や風土を含めたブランド化を図り漁業の活性化を目指す。

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
安定的な生産体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 水産加工場の整備 (H25～26) →産振補助金の活用 水揚げ時期に左右されない安定供給のための冷凍商品の開発・販売 (H29～) マイナス 50℃で保存可能な冷凍庫の整備 (R4) →中土佐町支援制度の活用 ※実施主体の変更 H27～29 中土佐町地域振興公社 H30～ (株)SEA プロジェクト R元～ 企画・どく礼もん企業組合 タタキ製品製造の効率化に向けて真空包装機導入 (R6) 地域おこし協力隊(団体委託型)2名の雇用による体制強化 (R7) 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高鮮度ブランドの確立 →「びんび鯉のたたき」、「びんびめじか」商品化 商品開発数 H27～R6 : 5商品 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 安定的な生産体制の構築 (仕入れ、製造、販売) 製造コストに見合う販売価格の検討 ECサイトの売上向上
販路拡大	<ul style="list-style-type: none"> 飲食店を対象にしたカツオのタタキ加工の産地視察受入 (R2～5) 中土佐町ふるさと納税業務の受託 (R2～4) ECサイトリニューアル (R2、R6) →動画・写真の追加、操作性向上 事業戦略、アクションプラン作成 (R3) →産振アドバイザー制度の活用 飲食店への中土佐町食材提供や共同イベント実施による新たな取引先の開拓 (R3～4) →中土佐町支援制度の活用 大正町市場と連携したイベント「大正町市場かつお祭」の企画・実施 (R4) 冷凍カツオの付加価値向上とECサイトの新しい顧客創出の戦略づくり (R5)、パッケージ開発と販売促進 (R6) →産振アドバイザー制度の活用 県内外でのイベントでの冷凍カツオPR (R5～) 県外催事等で二次元コード(HP・ECサイト・SNS)付きメッセージカードの配布開始 (R6) 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 安定的な生産体制の構築 (仕入れ、製造、販売) 製造コストに見合う販売価格の検討 ECサイトの売上向上

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
売上高	3,072万円 (R4)	4,991万円			5,900万円

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>安定的な生産体制の構築 (冷凍カツオ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 企画・どく礼もん企業組合 <ul style="list-style-type: none"> 冷凍カツオの製造のための人員確保 タタキ製品製造の効率化に向けた施設整備 (急速冷凍機) 県 (地域本部) <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供 	生産体制 見直し	人員 確保	冷凍タタキ等の 製造	
	試作 検討	設備 導入		新商品の製造
<p>営業活動の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 企画・どく礼もん企業組合 <ul style="list-style-type: none"> 冷凍カツオを中心とした商品の販路拡大 (首都圏・関西圏) (イベント出店、商談会参加、営業活動) 販売力強化に向けたECサイト改修 動線分析、動画・写真の追加、操作性向上、カツオのタタキの新しいレシピ開発、食べ方提案など、消費者が購入しやすいサイトづくり ブランドイメージ構築に向けた情報の発信 カツオへのこだわり、他社との違い 県 (地域本部) <ul style="list-style-type: none"> ECサイト改修に向けて産振アドバイザー制度の活用を提案 			関西圏、首都圏を主とする イベント・商談会出展	
	サイト 改修	動線 分析		ECサイトの 随時見直し
	ブランド サイト作成			継続的なブランド情報発信

修正項目(案)

修正前

高幡地域アクションプラン

		分野	商工業
AP名 (実施地域)	No.10 栲原町地産地消・外商の促進 (栲原町)		
実施主体	◎栲原町商工振興協同組合、栲原町、JA 高知県（高西地区）、町内事業者、生産団体		
APへの位置づけ	H21.4月		
事業概要	生産者の確保や新商品の開発等により、雲の上商品のブランド化など地場産品の商品力を強化するとともに、多くの人々が訪れ魅力的に感じられる新たな道の駅を整備し地産地消・外商を一層推進する。		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
地場産品の販売促進	<ul style="list-style-type: none"> ECサイト「雲の上ストア」運営開始（R2～） 集出荷事業の開始（R4：実証、R5：開始） 友好都市兵庫県西宮市の「西宮市民まつり」への出店 関西版県産品商談会への出展（菊芋）（R4） 直販所出荷おうえん事業（町単）として営業許可申請に係る費用などを補助（R4～） 道の駅ゆずはらにて自主企画イベント開催（R5） 栲原町役場産業振興課内に道の駅準備室設置（R3） 生産者と道の駅運営者による意見交換会の実施（R4） 道の駅案内看板の設置（R5） 売り場内に生産者紹介POPと出荷物を使ったレシピの設置（R5） 道の駅準備室による先進地視察（R5） 特産品魅力化WSの開催による地場産品の商品力向上（町単）（R6～） 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 町単独事業による支援制度の創設 「直販所出荷おうえん事業」（R4～） 新規出荷登録者数 R5：5名 県版 HACCP 第2ステージ認証取得 R元：2事業者 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 売上アップに向けた新たな商品の開発・磨き上げ 生産者を支える仕組みの構築
地場産品の商品力向上	<ul style="list-style-type: none"> 県主催食品表示研修や食品表示アドバイザーの活用（H30、R元） 6次産業化アドバイザーの活用（H30） 土佐MBA及び食品生産管理高度化支援研修の受講（H30） 直販所出荷おうえん事業（町単）として生産基盤づくりや生産者意見交換会などを実施 直販所出荷おうえん事業（町単）を活用した生産者による先進地視察研修実施（R5） 	<ul style="list-style-type: none"> 地場産品を使った「雲の上ブランド」商品の販売強化

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
直販所等の販売額	4,832万円 (R4)				1億円

※直販所等：まちの駅「マルシェ・ユスハラ」、「雲の上の市場」（R11年度～まちの駅「マルシェ・ユスハラ」、「新たな道の駅」予定）

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>新たな道の駅の整備と体制等の強化</p> <p>■栲原町</p> <ul style="list-style-type: none"> 運営主体、運営手法の検討選定 活用できる支援制度の検討 <p>■栲原町商工振興協同組合</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存ECサイトの見直しと運用 新しい道の駅で販売する商品の検討選定 出荷者の掘り起こし 人材の確保、専門家派遣による従業員の意識改革 専門家を導入した売り場づくりの検討 <p>□県（地域本部）</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し、アドバイザー導入提案 				人材育成・研修
				商品選定
				出荷者への支援及び生産者掘り起こし
				売り場づくり
<p>新たな地場産品の掘り起こしとPB商品の開発</p> <p>■栲原町商工振興協同組合、栲原町</p> <ul style="list-style-type: none"> 6次産業化セミナーへの参加、既存の町内地場産品の掘り起こしを行う 「雲の上ブランド」商品のブラッシュアップと新たなPB商品の検討開発 商品パッケージの検討 テイクアウト商品の検討開発 <p>□県（地域本部）</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修会への参加呼びかけ 各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 				地場産品の掘り起こし
				PB商品のブラッシュアップ商品開発
<p>地場産品の付加価値化による販売促進</p> <p>■栲原町商工振興協同組合、栲原町</p> <ul style="list-style-type: none"> 食品表示研修など商品の魅力向上に向けた各種研修の受講 HACCPに沿った衛生管理の取り組み周知 町外への積極的な販促活動による認知度向上 <p>□県（地域本部）</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し、アドバイザー導入提案 				商品力向上に向けたブランド力の強化
				関係機関と連携したPR活動

AP名 (実施地域)	No.10 栲原町地産地消・外商の促進 (栲原町)
実施主体	◎栲原町商工振興協同組合、栲原町、JA 高知県（高西地区）、町内事業者、 <u>(一社)ゆすはら雲の上観光協会</u>
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	生産者の確保や新商品の開発等により、雲の上商品のブランド化など地場産品の商品力を強化するとともに、多くの人々が訪れ魅力的に感じられる新たな道の駅を整備し地産地消・外商を一層推進する。

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
地場産品の販売促進	<ul style="list-style-type: none"> ECサイト「雲の上ストア」運営開始 (R2~) 集出荷事業の開始 (R4: 実証, R5: 開始) 友好都市兵庫県西宮市の「西宮市民まつり」への出店 関西版県産品商談会への出展 (菊芋) (R4) 直販所出荷おうえん事業 (町単) として営業許可申請に係る費用などを補助 (R4~) 道の駅ゆすはらにて自主企画イベント開催 (R5) 栲原町役場産業振興課内に道の駅準備室設置 (R3) 生産者と道の駅運営者による意見交換会の実施 (R4) 道の駅案内看板の設置 (R5) 売り場内に生産者紹介 POP と出荷物を使ったレシピの設置 (R5) 道の駅準備室による先進地視察 (R5) 特産品魅力化 WS の開催による地場産品の商品力向上 (町単) (R6~) 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 町単独事業による支援制度の創設 「直販所出荷おうえん事業」(R4~) 新規出荷登録者数 R5: 5名 県版 HACCP 第2ステージ認証取得 R元: 2事業者 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 売上アップに向けた新たな商品の開発・磨き上げ 生産者を支える仕組みの構築
地場産品の商品力向上	<ul style="list-style-type: none"> 県主催食品表示研修や食品表示アドバイザーの活用 (H30, R元) 6次産業化アドバイザーの活用 (H30) 土佐 MBA 及び食品生産管理高度化支援研修の受講 (H30) 直販所出荷おうえん事業 (町単) として生産基盤づくりや生産者意見交換会などを実施 直販所出荷おうえん事業 (町単) を活用した生産者による先進地視察研修実施 (R5) 	<ul style="list-style-type: none"> 地場産品を使った「雲の上ブランド」商品の販売強化

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
直販所等の販売額	4,832万円 (R4)				1億円

※直販所等：まちの駅「マルシェ・ユスハラ」、「雲の上の市場」(R11年度～まちの駅「マルシェ・ユスハラ」、「新たな道の駅」予定)

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>新たな道の駅の整備と体制等の強化</p> <p>■栲原町</p> <ul style="list-style-type: none"> 運営主体、運営手法の検討選定 活用できる支援制度の検討 <p>■栲原町商工振興協同組合</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存 EC サイトの見直しと運用 新しい道の駅で販売する商品の検討選定 出荷者の掘り起こし 人材の確保、専門家派遣による従業員の意識改革 専門家を導入した売り場づくりの検討 <p>□県 (地域本部)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し、アドバイザー導入提案 				人材育成・研修
				商品選定
				出荷者への支援及び生産者掘り起こし
				売り場づくり
<p>新たな地場産品の掘り起こしと PB 商品の開発</p> <p>■栲原町商工振興協同組合、<u>(一社)ゆすはら雲の上観光協会</u>、栲原町</p> <ul style="list-style-type: none"> 6次産業化セミナーへの参加、既存の町内地場産品の掘り起こしを行う 「雲の上ブランド」商品のブラッシュアップと新たな PB 商品の検討開発 商品パッケージの検討 テイクアウト商品の検討開発 <p>□県 (地域本部)</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修会への参加呼びかけ 各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 				地場産品の掘り起こし
				PB 商品のブラッシュアップ商品開発
<p>地場産品の付加価値化による販売促進</p> <p>■栲原町商工振興協同組合、<u>(一社)ゆすはら雲の上観光協会</u>、栲原町</p> <ul style="list-style-type: none"> 食品表示研修など商品の魅力向上に向けた各種研修の受講 HACCP に沿った衛生管理の取り組み周知 町外への積極的な販促活動による認知度向上 <p>□県 (地域本部)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し、アドバイザー導入提案 				商品力向上に向けたブランド力の強化
				関係機関と連携した PR 活動

高幡地域アクションプラン

		分野	商工業
AP名 (実施地域)	No.12 津野町地産地消・外商推進プロジェクト (津野町)		
実施主体	◎津野町、(有)津野町ふるさとセンター、(株)満天の星、JA 高知県(高西地区)		
APへの位置づけ	H21.4月		
事業概要	町内の生産者や事業者、観光施設等が連携し、生産・流通・販売を一体的に進めるとともに、新商品開発や販売・PRを通じて道の駅やアンテナショップ等における地場産品の地産地消・外商を推進する。併せて、つの茶ブランドの推進やティーツーリズムの取り組みによる茶製品の販売促進と中山間地域における茶園の景観維持を目指す。		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
アンテナショップの魅力向上と外商の拡大につなげる商品づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 津野町直販機能等強化 (R4) →産振補助金の活用 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 道の駅布施ヶ坂入込者数の増加 R1: 138,627人 →R4: 173,531人 →R5: 184,096人 満天の星とふるさとセンターが連携したメニュー開発 R3~5: 2品 直販所会員の確保 R4: 470人 うち新規会員 9人 R5: 472人 うち新規会員 12人 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> アンテナショップの老朽化 外貨を稼ぐための町内事業者間の連携体制 満天の星ブランドの認知向上 茶の新たな販路開拓やPR活動など、販売体制の強化
出荷量の確保と地産地消の推進	<ul style="list-style-type: none"> 津野町地域資源「ふる」活用ビジネス事業 (H21~23) →産振補助金の活用 営農アドバイザーの配置等による生産者支援の強化充実 道の駅布施ヶ坂リニューアルによる販売強化 (R3)、(有)津野町ふるさとセンターの経営強化 (R4) →高知農山漁村発イノベーションサポートセンターの活用 各社の連携した取り組みの推進 (R3~) 満天の星から星ふるヴィレッジ TENGUへ土産物供給 ふるさとセンターから星ふるヴィレッジ TENGUへ食材供給 満天の星からふるさとセンターへ食堂メニューの提供 	<ul style="list-style-type: none"> 放棄茶園の再生・維持 R3: 約 0.8ha R4: 約 0.72ha R5: 約 0.86ha
「つの茶」ブランドの推進による茶製品の販売拡大	<ul style="list-style-type: none"> つの茶販売戦略に基づく茶製品販売拡大事業 (H27) →産振補助金の活用 茶の販売力向上における課題分析 (R2)、「つの茶販売戦略計画」の見直し (R3) →産振アドバイザー制度の活用 土佐茶ワークショップの参加 (R4) 津野町茶業振興計画の策定 (R4) つの茶振興協議会の設立 (R5) 色彩選別機導入による品質向上 (R5) 	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)主要2社の総売上高	3.70億円 (R4)				4.46億円
(2)直販所総販売額	1.33億円 (R4)				1.40億円
(3)茶製品販売額	3,936万円 (R4)				4,400万円

※町内主要2社:「(有)津野町ふるさとセンター」、「(株)満天の星」

※茶製品販売額: JA 高知県(高西地区)と(株)満天の星の茶製品販売額の合計

第5期計画における行程表					
事業概要	R6	R7	R8	R9	
<p>アンテナショップのリニューアルによる魅力発信の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 津野町 <ul style="list-style-type: none"> 市場調査を踏まえたリニューアル方針の検討及び整備 県(高幡地域本部) <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し <p>地域産品(津野町産の茶や農産物など)を生かした商品づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> (株)満天の星、JA 高知県(高西地区)、(有)津野町ふるさとセンター <ul style="list-style-type: none"> 産振アドバイザー制度を活用し、新商品や加工品を開発 展示会や商談会、WEBでのPR発信による農産物・加工品の販売拡大 県(高幡地域本部) <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 商品開発に関する産振アドバイザー制度の活用を提案 		計画設計	工事	リニューアル	
<p>安心・安全な農産物の出荷と高付加価値化の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 津野町 <ul style="list-style-type: none"> 営農アドバイザーの配置等による生産者支援(維持、確保) 荒廃農地を活用した有機農業の取り組みの検討 県(高幡地域本部等) <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し、広報支援 <p>事業者間の連携による地産地消外商の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 津野町、(有)津野町ふるさとセンター、(株)満天の星 <ul style="list-style-type: none"> 町内産品の地域内循環の仕組みづくり 					生産者支援、有機農業の取り組みの検討
<p>茶製品の販売拡大と中山間地域における景観の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> 津野町 <ul style="list-style-type: none"> 生産・消費販売・文化振興を柱とした「津野町茶業振興計画」の推進 ティーツーリズムや観光とタイアップした取り組みの実施 県(地域観光課、高幡地域本部等) <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 					「津野町茶業振興計画」の推進
		ティーツーリズム等の検討			ティーツーリズム等の実施

高幡地域アクションプラン

		分野	商工業
AP名 (実施地域)	No.12 津野町地産地消・外商推進プロジェクト (津野町)		
実施主体	◎津野町、(有)津野町ふるさとセンター、(株)満天の星、JA 高知県(高西地区)		
APへの位置づけ	H21.4月		
事業概要	町内の生産者や事業者、観光施設等が連携し、生産・流通・販売を一体的に進めるとともに、新商品開発や販売・PRを通じて道の駅やアンテナショップ等における地場産品の地産地消・外商を推進する。併せて、つの茶ブランドの推進やティーツーリズムの取り組みによる茶製品の販売促進と中山間地域における茶園の景観維持を目指す。		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
アンテナショップの魅力向上と外商の拡大につなげる商品づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 津野町直販機能等強化 (R4) →産振補助金の活用 満天の星リニューアルにかかる第2世代交付金の地域計画の認定 →交付金申請における実施計画の作成(R7) 	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> 道の駅布施ヶ坂入込者数の増加 R1: 138,627人 →R4: 173,531人 →R5: 184,096人 →R6: 176,524人 満天の星とふるさとセンターが連携したメニュー開発 R3~5: 2品 直販所会員の確保 R4: 470人 うち新規会員 9人
出荷量の確保と地産地消の推進	<ul style="list-style-type: none"> 津野町地域資源「ふる」活用ビジネス事業 (H21~23) →産振補助金の活用 営農アドバイザーの配置等による生産者支援の強化充実 道の駅布施ヶ坂リニューアルによる販売強化 (R3)、(有)津野町ふるさとセンターの経営強化 (R4) →高知農山漁村発イノベーションサポートセンターの活用 各社の連携した取り組みの推進 (R3~) 満天の星から星ふるヴィレッジ TENGUへ土産物供給 ふるさとセンターから星ふるヴィレッジ TENGUへ食材供給 満天の星からふるさとセンターへ食堂メニューの提供 (有)津野町ふるさとセンター加工場にティーバッグ加工機、粉碎機、自動計量器を導入 (R6) 	<ul style="list-style-type: none"> うち新規会員 12人 放棄茶園の再生・維持 R3: 約 0.8ha R4: 約 0.72ha R5: 約 0.86ha <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 直販所の出荷量の確保 地域産品を活用した商品開発 アンテナショップの老朽化 外貨を稼ぐための町内事業者間の連携体制 満天の星ブランドの認知向上 茶の新たな販路開拓やPR活動など、販売体制の強化
「つの茶」ブランドの推進による茶製品の販売拡大	<ul style="list-style-type: none"> つの茶販売戦略に基づく茶製品販売拡大事業 (H27) →産振補助金の活用 茶の販売力向上における課題分析 (R2)、「つの茶販売戦略計画」の見直し (R3) →産振アドバイザー制度の活用 土佐茶ワークショップの参加 (R4) 津野町茶業振興計画の策定 (R4) つの茶振興協議会の設立 (R5) 色彩選別機導入による品質向上 (R5) 	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)主要2社の総売上高	3.70億円 (R4)	4.20億円			4.46億円
(2)直販所総販売額	1.33億円 (R4)	1.21億円			1.40億円
(3)茶製品販売額	3,936万円 (R4)	3,207万円			4,400万円

※町内主要2社:「(有)津野町ふるさとセンター」、「(株)満天の星」
 ※茶製品販売額:JA 高知県(高西地区)と(株)満天の星の茶製品販売額の合計

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>アンテナショップのリニューアルによる魅力発信の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 津野町 <ul style="list-style-type: none"> 市場調査を踏まえたリニューアル方針の検討及び整備 県 (高幡地域本部) <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し <p>地域産品 (津野町産の茶や農産物など) を生かした商品づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> (株)満天の星、JA 高知県(高西地区)、(有)津野町ふるさとセンター <ul style="list-style-type: none"> 産振アドバイザー制度を活用し、新商品や加工品を開発 展示会や商談会、WEBでのPR発信による農産物・加工品の販売拡大 県 (高幡地域本部) <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 商品開発に関する産振アドバイザー制度の活用を提案 		計画	設計	工事
<p>安心・安全な農産物の出荷と高付加価値化の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 津野町 <ul style="list-style-type: none"> 営農アドバイザーの配置等による生産者支援 (維持、確保) 荒廃農地を活用した有機農業の取り組みの検討 県 (高幡地域本部等) <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し、広報支援 <p>事業者間の連携による地産地消外商の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 津野町、(有)津野町ふるさとセンター、(株)満天の星 <ul style="list-style-type: none"> 町内産品の地域内循環の仕組みづくり 				生産者支援、有機農業の取り組みの検討
<p>茶製品の販売拡大と中山間地域における景観の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> 津野町 <ul style="list-style-type: none"> 生産・消費販売・文化振興を柱とした「津野町茶業振興計画」の推進 ティーツーリズムや観光とタイアップした取り組みの実施 県 (地域観光課、高幡地域本部等) <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 				「津野町茶業振興計画」の推進
		ティーツーリズム等の検討		ティーツーリズム等の実施

修正項目(案)

修正前

高幡地域アクションプラン

		分野	商工業
AP名 (実施地域)	No.13 道の駅「あぐり窪川」の機能強化と地域の活性化 (四万十町)		
実施主体	◎四万十町、(株)あぐり窪川		
APへの位置づけ	H24.4月		
事業概要	道の駅兼地場産業振興センターであるあぐり窪川を拠点とし、地域の特産品の直販やレストランでの提供、観光情報の発信、地域資源を活用した加工品の開発と販売により、地場産業の振興と地域活性化を目指す。		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
物販・レストランの強化	<ul style="list-style-type: none"> 季節ごとの企画コーナー設置やレストランメニューの提供（継続） 四万十町のアンテナショップ「しまんとマルシェ四万十の蔵」の運営（H24～H27） 農カフェ 40010 でのテイクアウトメニュー提供（～H29） 「窪川米豚丼」が全国丼グランプリで金賞受賞（H27～30） 売り場のリニューアルにより豚まんコーナーを設置（H31） 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■雇用者数 9名（H29）→12名（R5） ■豚まん等販売額 9,300万円（H30）→1.27億円（R5）
商品開発・販路拡大	<ul style="list-style-type: none"> 豚まん・シューマイ等の増産にかかる加工場（第一工場）の整備（R元）→産振補助金の活用 第一工場 県版 HACCP 第3ステージ認証取得（R2） 第一工場への加工機械の導入（R2）→新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金の活用 第二工場（菓子・スイーツ製造）の改修（R2） 豚まんのリニューアル（保存料、甘味料、着色料不使用）（R3） 第二工場 県版 HACCP 第2ステージ認証取得（R4） 地元企業と連携した新商品「ジャン麺まん」の開発（R4） 中期経営計画の策定、マーケティング戦略の立案と実践（R5～6） →産振アドバイザー制度の活用 新商品の開発（丸型餃子、冷凍ハンバーグ）（R6） 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 道の駅の人員不足と物価高騰等による経費増加 新商品開発による販路開拓と工場の稼働率アップ 豚まん等のさらなる販路拡大
情報発信機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信コーナーの設置（継続） 創業祭、収穫祭、豚とんフェスタ等のイベント開催（継続） 海洋堂ホビー館サテライトコーナーの設置（H24～） Instagram 開設（H30） 自社ホームページの改修（R2） X（旧 Twitter）及び Facebook 開設（R3） 	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
売上高	3.15億円 (R4)				4.41億円

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>物販・直販所の魅力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 道の駅あぐり窪川 <ul style="list-style-type: none"> 商品や売り場の見直し、季節ごとのフェアの実施、出品者の新規獲得、土産物コーナーと直販所の一元化に向けた検討 <p>「レストラン風人」の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> 道の駅あぐり窪川 <ul style="list-style-type: none"> 提供方法やメニュー等の見直し、受入体制の強化とサービスの向上 □県（地域本部等） <ul style="list-style-type: none"> 物販・レストランの見直しに関する産振アドバイザー制度の活用を提案、各種支援制度の情報提供 				
<p>「あぐりの豚まん」に次ぐ新商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> 道の駅あぐり窪川 <ul style="list-style-type: none"> 通年販売できる新商品の開発、新たな地域資源の掘り起こし □県（地域本部等） <ul style="list-style-type: none"> 商品開発に関する産振アドバイザー制度の活用を提案、各種支援制度の情報提供 <p>販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 道の駅あぐり窪川 <ul style="list-style-type: none"> 営業活動の強化（展示商談会等への参加、オンライン商談の強化） □県（地域本部等） <ul style="list-style-type: none"> 販路開拓に関する産振アドバイザー制度の活用を提案、商談会等の情報提供 				
<p>SNS等を活用した情報発信の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 道の駅あぐり窪川 <ul style="list-style-type: none"> SNS等を活用した効果的な情報発信、町内3道の駅の連携企画の検討 □県（地域本部等） <ul style="list-style-type: none"> 情報発信に関するセミナー等の情報提供 				

高幡地域アクションプラン

分野 商工業

AP名 (実施地域)	No.13 道の駅「あぐり窪川」の機能強化と地域の活性化 (四万十町)
実施主体	◎四万十町、(株)あぐり窪川
APへの位置づけ	H24.4月
事業概要	道の駅兼地場産業振興センターであるあぐり窪川を拠点とし、地域の特産品の直販やレストランでの提供、観光情報の発信、地域資源を活用した加工品の開発と販売により、地場産業の振興と地域活性化を目指す。

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
物販・レストランの強化	<ul style="list-style-type: none"> 季節ごとの企画コーナー設置やレストランメニューの提供（継続） 四万十町のアンテナショップ「しまんとマルシェ四万十の蔵」の運営（H24～H27） 農カフェ 40010 でのテイクアウトメニュー提供（～H29） 「窪川米豚丼」が全国丼グランプリで金賞受賞（H27～30） 売り場のリニューアルにより豚まんコーナーを設置（H31） 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■雇用者数 9名（H29）→12名（R5） ■豚まん等販売額 9,300万円（H30）→1.27億円（R5）
商品開発・販路拡大	<ul style="list-style-type: none"> 豚まん・シューマイ等の増産にかかる加工場（第一工場）の整備（R元）→産振補助金の活用 第一工場 県版 HACCP 第3ステージ認証取得（R2） 第一工場への加工機械の導入（R2）→新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金の活用 第二工場（菓子・スイーツ製造）の改修（R2） 豚まんのリニューアル（保存料、甘味料、着色料不使用）（R3） 第二工場 県版 HACCP 第2ステージ認証取得（R4） 地元企業と連携した新商品「ジャン麺まん」の開発（R4） 中期経営計画の策定、マーケティング戦略の立案と実践（R5～6） →産振アドバイザー制度の活用 新商品の開発（丸型餃子、冷凍ハンバーグ）（R6） 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 道の駅の人員不足と物価高騰等による経費増加 新商品開発による販路開拓と工場の稼働率アップ 豚まん等のさらなる販路拡大
情報発信機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信コーナーの設置（継続） 創業祭、収穫祭、豚とんフェスタ等のイベント開催（継続） 海洋堂ホビー館サテライトコーナーの設置（H24～） Instagram 開設（H30） 自社ホームページの改修（R2） X（旧 Twitter）及び Facebook 開設（R3） 	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
売上高	3.15億円 (R4)	3.15億円			4.41億円

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>物販・直販所の魅力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 道の駅あぐり窪川 <ul style="list-style-type: none"> 商品や売り場の見直し、季節ごとのフェアの実施、出品者の新規獲得、土産物コーナーと直販所の一元化に向けた検討 <p>「レストラン風人」の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> 道の駅あぐり窪川 <ul style="list-style-type: none"> 提供方法やメニュー等の見直し、受入体制の強化とサービスの向上 □県（地域本部等） <ul style="list-style-type: none"> 物販・レストランの見直しに関する産振アドバイザー制度の活用を提案、各種支援制度の情報提供 				
<p>「あぐりの豚まん」に次ぐ新商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> 道の駅あぐり窪川 <ul style="list-style-type: none"> 通年販売できる新商品の開発、新たな地域資源の掘り起こし □県（地域本部等） <ul style="list-style-type: none"> 商品開発に関する産振アドバイザー制度の活用を提案、各種支援制度の情報提供 <p>販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 道の駅あぐり窪川 <ul style="list-style-type: none"> 営業活動の強化（展示商談会等への参加、オンライン商談の強化） □県（地域本部等） <ul style="list-style-type: none"> 販路開拓に関する産振アドバイザー制度の活用を提案、商談会等の情報提供 				
<p>SNS等を活用した情報発信の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 道の駅あぐり窪川 <ul style="list-style-type: none"> SNS等を活用した効果的な情報発信、町内3道の駅の連携企画の検討 □県（地域本部等） <ul style="list-style-type: none"> 情報発信に関するセミナー等の情報提供 				

高幡地域アクションプラン

	分野	観光
AP名 (実施地域)	No.19 カツオを起点とした持続可能な観光を主軸とする地域産業の振興 (中土佐町)	
実施主体	◎(一社)なかとさ観光協会、中土佐町、(株)中土佐町地域振興公社、大正町市場協同組合、中土佐町商工会	
APへの位置づけ	H21.4月	
事業概要	10年後も「土佐久礼かつお」の本場としてカツオを食べにお越しいただける町を目指して、町内関係者が連携してカツオによる観光を推進することでカツオ産業を守り、カツオを起点とした持続可能な観光地域づくりを行う。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
受け入れ態勢の強化	<ul style="list-style-type: none"> 観光拠点施設「ぜよびあ」オープン (H28) →観光拠点等整備事業費補助金の活用 黒潮本陣コテージ改修、コテージ遊歩道整備 (R2) →観光施設等緊急整備事業費補助金の活用 黒潮本陣本館改修 (R3) →観光振興推進総合支援事業費補助金の活用 観光客の利便性向上 (コインロッカー整備) 	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験受入数 R5:1,775人 宿泊者数(黒潮本陣) R5 14,357人 大正町市場入込数 R5:405,319人 SNSフォロワー数 Instagram:6,700人 周遊プランの造成 2件
土佐久礼かつおのファンづくり	<ul style="list-style-type: none"> 「かつお祭」など町内イベントの開催 土佐久礼におけるカツオを中心とした食体験のインバウンド施策 (R5) →観光庁観光コンテンツ造成支援事業の活用 関西圏へのイベント出店 (R5~) 高知空港中土佐フェア開催 (R5~) 高知県アンテナショップ (東京・大阪)で「土佐久礼かつおフェア」開催 (R6) カツオ授業の実施 (町内小中学校 6回/年、昭和小学校、梶原中学校、JICA研修、台湾留学生研修、奥四万十高知研修等) 	<p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 周遊促進と滞在時間延長の仕組みづくり 観光客受け入れ環境の整備 関西圏からの集客促進
観光客の町内周遊促進	<ul style="list-style-type: none"> 食と体験の深掘りと回遊商品開発 (R4) →観光庁看板商品創出事業の活用 周遊プランの作成とツアーの実施 (R5) 「昔ながらの漁師町の路地を巡る昭和にタイムスリップコース」 「土佐久礼 NO KATSUO NO LIFE コース」 	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)観光施設入込数	476,457人 (R4)				524,000人
(2)黒潮本陣宿泊者数	8,529人※ (R4)				12,000人
(3)タタキ体験受入数	1,512人 (R4)				2,200人
(4)町内事業者へのカツオ販売額	143百万円 (R4)				157百万円

※3ヶ月(1~3月)の休業あり

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>観光協会の体制整備</p> <p>■(一社)なかとさ観光協会</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光案内を強化するための拠点整備の検討及び体制強化(人材確保及び特性に応じた育成、自主事業開発と収益性担保、組織体の拡充等) 観光客等の利便性向上 機能強化(観光客おもてなしのための物販機能の検討や商品開発) <p>□県(地域本部)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供 	<p>拠点整備</p>	<p>体制整備・機能強化</p>		
		<p>観光案内情報発信</p>		
	<p>物販機能の検討</p>	<p>お土産商品開発・販売</p>		
<p>関西圏等におけるPR活動の強化</p> <p>■(一社)なかとさ観光協会、中土佐町商工会</p> <ul style="list-style-type: none"> 関西圏や高知空港などでのイベント・催事による「土佐久礼かつお」のファンづくり <p>□県(地域本部、大阪事務所)</p> <ul style="list-style-type: none"> 関西圏で実施されるイベント等の情報提供、支援制度の紹介 <p>中土佐町を訪問した観光客へのPR</p> <p>■(一社)なかとさ観光協会、地元事業者</p> <ul style="list-style-type: none"> インバウンドを意識した観光客向けカツオプロモーション カツオ授業の実施(小学生、大人、観光客向け) 		<p>関西圏を中心とした県外でのPR活動</p>		
		<p>観光客へのPR (観光列車の乗客へのPR、カツオ授業等)</p>		
<p>周遊の仕組みづくり</p> <p>■(一社)なかとさ観光協会</p> <ul style="list-style-type: none"> 中土佐町内の観光素材を周遊する観光コースの提案(土佐久礼駅、久礼大正町市場、道の駅なかとさ、黒潮本陣、久礼八幡宮、双名島、西岡酒造店、美術館、漁業体験など) どっぶり高知旅キャンペーンによるツアー商品造成 観光客向けのサービス充実(レンタサイクル事業、手荷物預かりサービス) 中心商店街周辺の駐車場整備に向けた検討 <p>□県(地域観光課、地域本部)</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光関連支援制度の情報提供 		<p>周遊プランの磨き上げ・提供</p>		
	<p>設備整備</p>	<p>設備を活用した周遊促進 (レンタサイクル等)</p>		
	<p>駐車場整備の検討</p>	<p>駐車場整備</p>	<p>サービス提供</p>	

高幡地域アクションプラン

		分野	観光
AP名 (実施地域)	No.19 カツオを起点とした持続可能な観光を主軸とする地域産業の振興 (中土佐町)		
実施主体	◎(一社)なかとさ観光協会、中土佐町、(株)中土佐町地域振興公社、大正町市場協同組合、中土佐町商工会		
APへの位置づけ	H21.4月		
事業概要	10年後も「土佐久礼かつお」の本場としてカツオを食べにお越しいただける町を目指して、町内関係者が連携してカツオによる観光を推進することでカツオ産業を守り、カツオを起点とした持続可能な観光地域づくりを行う。		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
受け入れ態勢の強化	<ul style="list-style-type: none"> 観光拠点施設「ぜよびあ」オープン (H28) →観光拠点等整備事業費補助金の活用 黒潮本陣コテージ改修、コテージ遊歩道整備 (R2) →観光施設等緊急整備事業費補助金の活用 黒潮本陣本館改修 (R3) →観光振興推進総合支援事業費補助金の活用 観光客の利便性向上 (コインロッカー整備) 	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験受入数 R6: 1,890人 宿泊者数(黒潮本陣) R6: 8,434人 大正町市場入込数 R6: 237,440人 SNS フォロワー数 Instagram : 6,700人 R6 周遊プランの造成 3件 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 周遊促進と滞在時間延長の仕組みづくり 観光客受け入れ環境の整備 関西圏からの集客促進
土佐久礼かつおのファンづくり	<ul style="list-style-type: none"> 「かつお祭」など町内イベントの開催 土佐久礼におけるカツオを中心とした食体験のインバウンド施策 (R5) →観光庁観光コンテンツ造成支援事業の活用 関西圏へのイベント出店 (R5~) 高知空港中土佐フェア開催 (R5~) 高知県アンテナショップ (東京・大阪)で「土佐久礼かつおフェア」開催 (R6) カツオ授業の実施 (町内小中学校 6回/年、昭和小学校、梶原中学校、JICA 研修、台湾留学生研修、奥四万十高知研修等) 	
観光客の町内周遊促進	<ul style="list-style-type: none"> 食と体験の深掘りと回遊商品開発 (R4) →観光庁看板商品創出事業の活用 周遊プランの作成とツアーの実施 (R5) 「昔ながらの漁師町の路地を巡る昭和にタイムスリップコース」 「土佐久礼 NO KATSUO NO LIFE コース」 	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)観光施設入込数	476,457人 (R4)	543,314人			524,000人
(2)黒潮本陣宿泊者数	8,529人※ (R4)	8,434人			12,000人
(3)タタキ体験受入数	1,512人 (R4)	2,109人			2,200人
(4)町内事業者へのカツオ販売額	143百万円 (R4)	159百万円			157百万円

※3ヶ月(1~3月)の休業あり

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>観光協会の体制整備</p> <p>■(一社)なかとさ観光協会</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光案内を強化するための拠点整備の検討及び体制強化(人材確保及び特性に応じた育成、自主事業開発と収益性担保、組織体の拡充等) 観光客等の利便性向上 機能強化(観光客おもてなしのための物販機能の検討や商品開発) <p>□県(地域本部)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供 	<p>拠点整備</p>	<p>体制整備・機能強化</p>		
		<p>観光案内情報発信</p>		
	<p>物販機能の検討</p>		<p>お土産商品開発・販売</p>	
<p>関西圏等におけるPR活動の強化</p> <p>■(一社)なかとさ観光協会、中土佐町商工会</p> <ul style="list-style-type: none"> 関西圏や高知空港などでのイベント・催事による「土佐久礼かつお」のファンづくり <p>□県(地域本部、大阪事務所)</p> <ul style="list-style-type: none"> 関西圏で実施されるイベント等の情報提供、支援制度の紹介 <p>中土佐町を訪問した観光客へのPR</p> <p>■(一社)なかとさ観光協会、地元事業者</p> <ul style="list-style-type: none"> インバウンドを意識した観光客向けカツオプロモーション カツオ授業の実施(小学生、大人、観光客向け) 		<p>関西圏を中心とした県外でのPR活動</p>		
			<p>観光客へのPR (観光列車の乗客へのPR、カツオ授業等)</p>	
<p>周遊の仕組みづくり</p> <p>■(一社)なかとさ観光協会</p> <ul style="list-style-type: none"> 中土佐町内の観光素材を周遊する観光コースの提案(土佐久礼駅、久礼大正町市場、道の駅なかとさ、黒潮本陣、久礼八幡宮、双名島、西岡酒造店、美術館、漁業体験など) どつぶり高知旅キャンペーンによるツアー商品造成 観光客向けのサービス充実(レンタサイクル事業、手荷物預かりサービス) 中心商店街周辺の駐車場整備に向けた検討 <p>□県(地域観光課、地域本部)</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光関連支援制度の情報提供 		<p>周遊プランの磨き上げ・提供</p>		
	<p>設備整備</p>		<p>設備を活用した周遊促進 (レンタサイクル等)</p>	